

さみしい夜の句会報 第87号 (2022. 10. 16-2022. 10. 23)

- ◆ 参加者 蔭一郎、柘秘密子、てくてく、橘月子、岡村知昭、土菴（もぐら）、宮坂愛哲、しまむらくん、池田吉輝、やー、風池陽一、rajinji、syusyu、木野清瀬、日下昊、石川聡、しろとも、電車侍、もず、西脇祥貴、高良俊礼、空瓶、輪井ゆう、雷（ら）、IZU、longroof、森内詩紋、望月華（もちづきはな）、抹茶金魚、休庵、おかもとかも、さふみける、花野玖、あ、汐田大輝、最中妙、白水ま衣、徳道かつみ、茶熊（ちくま）、水の眠り、とるぼとる、石原とつき、せば、hyuntoppa、元さん、馬勝、西沢葉火、まつりぺきん、太代祐一、雲上晴也、糸瓜曜子、yu sen、ぼっぼ、月硝子、コネコノビッチ、海馬、須藤はる、草太朗、金瀬達夫、小沢史、sarasa、かなず（梨山）、碧、涼、鴨川ねね、crazy lover、藤井皐、川合大祐、東（とう）、Millient、涼閑（りょうかん）、星野鸞、桔梗華、たろりずむ（さ）、砂狐、天やん、みや水也、むくみんママ、チューバ、2022、雪夜慧星、式定住佳ゆりのはなこ、ヤマダリツコ、猫又（夏梅堂）、檜崎進弘、June, born in Apr. 10/2 文フリ札幌 35・36、Nohu Hayashi、dome、葛（くず）、月波与生（九〇名）

◆ 7・7詩、5・7・5詩

神様も股間に布をまどつてる 橘月子
わたくしの運命線に絡む鳶 蔭一郎
秋の月 愛人になることにする 東（とう）
離陸後に炊けるきのご飯を想う 蔭一郎
次頁は句読点なき秋意かな syusyu
風力で三千年を輪廻する さー
結露する硝子は泣けぬ君のため 須藤はる
エンボスのそれは心の雨季の夢 高良俊礼

薄まってゆく秋にラ行をあげる 蔭一郎
人称代名詞のファルセット&コルセット 海馬
骨壺の主語が書き換えられていた 白水ま衣
脱がないで鉄砲隊のいる駅で 岡村知昭
ひげのないぞんびをゆるさないラジオ 岡村知昭
あしびきに頷くアガサ・クリステイー 川合大祐
ゴルトベルクから搾乳機から soap 藤井皐
新しいウインドウズに障子貼る しまねこくん
倒産の産です冬は二度目です 西脇祥貴
親指の渦に巻かれる中島みゆき 西脇祥貴
無翼の中島みゆき 西脇祥貴
偏頭痛早く括弧を閉じないと 小沢史
香水の匂いを辿ったら土星 蔭一郎
妹の香水つけてもまだ姉 糸瓜囃子
骨壺は主語を匿う場所なのに 白水ま衣
せつがちね眠る前からポップコーン 小沢史
逢初めや音をたてずに走り蕎麦 小沢史
ぼんやりを運ぶ頭上の飛行船 Ryu_sen
鏡の方が本当らしい右手 抹茶金魚
秋天の四隅に掃除機をかける 蔭一郎
志願して飛ぶ団栗に敬礼を しまねこくん
脚なんて飾りですよに赤入れて まつりぺきん
明日にはテクマクマヤコンで青い鳥 水の眠り
眠りにつくまでのわたくしの正義 水の眠り
赤とんぼの翅で包んだ葉です(効きます) ぽっぽ
からすみを口にふくんだまま家出 蔭一郎
書き込みの無い遺伝子にピアス穴 Ryu_sen
クッションに名をつけそうなメロドラマ 抹茶金魚
ピーナツ死にたいときだいたい独り 太代祐一
ははーんさては(※解説不能) おかもとかも
激しい空手チョップの夜に おかもとかも

遊ぶ金欲しさに世売り歩く Inyutoppa

あおぞらは今、弟子はとらない 白水ま衣
鯉っていいね、みんな死なない気がするね 西脇祥貴

ほうき草笑うスカした言選び てくてく

夜の中背徳感とカップ麺 土竜

フオーク歌手彷徨う末のロックかな 宮坂変哲

ジョウビタキあのコの息子と思ひ遣り 流天

運動会紺のおしりに白い砂 さー

バラ売りにひとつになりぬ林檎かな 風池陽一

針千本飲み cooon の中に入る raini

秋雲の黒き羊は長女らし 木野清瀬

ホトトギス鳴く方じゃなくて花の方 日下昊

アクリル板はさんでみんなハイファイブ 石川聡

日の下の あぶくは明日取りに行く しるとも

老猫の 柘榴の如き あくびかな 電車侍

うずくまった背中を焼いて白い月 もす

満月と内緒話をして眠る 空瓶

雑草が飲んだポストに請求書 輪井ゆう

目のまえ百年まえにして目の裏の百年後 雷

ひやかかなひかりとかたくなからだ INU

記憶無いその言葉だけは記憶して さぶみける

足跡を辿る赤道杜鵑草 花野玖

イカロスの傲慢のち小鳥来る あ

筆箱に閉じ込めてある十二月 汐田大輝

肝心をを嚙む知らない言えないの 茶熊さえこ

新しい星座が胸を貸す 石原とつき

一斉に灯り消えて月残る せば

神の留守余白で告げた嫌悪感 馬勝

坂の上精いっぱい秋夕焼 雲上晴也

金柑が積もる隣家に不穏の香 月硝子

泥棒猫と言われた寄生虫と返してやった コネコノビッチ

命と非命と東京との間 草太朗

イエスさま愛しています 愁思かな 金瀬蓬夫

秋空と子供の目あとずさりする sarasa

親指で凹むケーキも人生も かなず

季語がまだイマイチ理解できてない 涼

白鳥の裏にはシベリアの男 西沢葉火

茜空白き蝶々の展翹板 鴨川ねぎ

なんやかや自分が食べる ひとりじめ crazy lover

命持つものの散りざわ見届ける 涼閑

触れ合いを漢字で書けば生々し ころんころん

夕花野染まりつつ来るひとを待つ 星野響

中秋で少し薄着の謎深し 黎明

整骨院が骨より多い たろりずむ

ごみ置き場ただ秋雨の打つおむつ 天やん

真夜中に一人鉄道猫見て笑っている むくみんママ

束の間の秋夜のいのり目を閉じる 鶴子

遠くまで歩いてゆこう星月夜 雪夜替星

秘蜜の恋未必の故意で苦しめる 弍定住佳

母さんの裸体はいわし雲なれど ゆりのはなこ

地平線掴むと水の重さかな 月波与生

◆ 7・7、5・7・7・5以外の短詩

遺書を書くためタリーズへ来たのに締切間近のレポートが

ある 望月華

僕たちのヒーローだった先生は老いて万引き犯で捕まる

鈴音

たぶん俺バカアホママスケロクデナシカレー南蛮白シャツで

喰う 鈴音

男より白くて柔いこの肌は誰かの肋骨で出来ている 望月華

教会の結婚式は華やかで祝うと呪うはどこか似ている 鈴音

平気だと我慢できたら今もまだ好きと言えてたきみの横顔
柘秘密子

連れて行かれた回らない寿司屋の名前がはま寿司だった
Longroof

冬までにあの教会までもう一度薔薇に会うため行こうじや
ないか 森内詩紋

冬までにかぼちやのパイを焼かなくちや精霊たちにお裾分
けしなきや 最中妙

眠剤を飲むから君に会えないのもう触れることさえ出来ぬ
黄泉路の向こう とるぼどーる

日が落ちて夕日に染まるシルエツト遠い空からプロジェク
ター 元さん

やる気減る昼の空腹満たしたらどんどん眠くなりゆくこと
わり Millieent

更けぬ夜いちばん深いところにて見果てぬ夢も見られずに
いる みや

空き家の庭の柿でお菓子を作つて振る舞いたい ヤマダリ
ツコ

教会の結婚式は華やかで祝うと呪うはどこか似ている 鈴
音

◆ 詩

いい歳なのに不良です

ここら辺で ちゃんと向き合おう。

自分自身 大事にせんとあかんね。

気づかせてくれてありがとう。

身体の為に 良ぬ子になるわ (一休庵)

◆作品評から

運命の「う」は宇宙犬の「う」 白水ま衣

『レイ・ブラッドベリの短編集に『スは宇宙のス』『ウは宇宙船のウ』というのがあるから後発としてはこれより面白いかどうか、にかかってくる。(月波与生)

冬までにかぼちゃのパイを焼かなくちや精霊たちにお裾分けしなきや 最中妙

♪好きです。サウインは最後の収穫祭にして冬の入口。

(森内詩紋)

教会の結婚式は華やかで祝うと呪うはどこか似ている 鈴音

♪くたばつちまえ アーメン (猫又 (夏梅堂))

親指の渦に巻かれる中島みゆき 西脇祥貴

♪小栗虫太郎の太平洋漏水孔！ (檜崎進弘)

いくたびも膀胱に夜をたずねけり

♪僕も実感していますが、歳と共に尿意は近くなります。夜中に何度も目を覚ましては「またなの？」と膀胱に尋ねている場面を思い浮かべます。一方で、助詞の「に」を「は」に入れ替えると、膀胱がトイレを求めて夜を訪ねるといふシュールさが生まれます。

一句で二度美味しいですね。(西沢葉火)

生きてゆくスーツ姿の焼け野原

♪つい、現代社会を生きるサラリーマンの悲哀として読んでしまいそうですが、このまま、ありのままの景色としてストレートに読んだ方が、ずっと胸に迫る句だと思いま

す。ただし、そうとしか読ませない何かが足りないとは思
います。それが何かは分かりませんが。(西沢葉火)

哀れ蚊の針から打者が一巡す しまねこくん

「哀れ蚊の針から」の叙情から「打者が一巡す」の展
開に意表をつかれた。「針から打者が」のズムのよさもい
い。(月波与生)

親指で凹むケーキも人生も かなず

「めっちゃいい句やん! (June, born in Apr. 10/2 文フ
リ札幌おー35・36)

午後の死を閉じ込めてある青蜜柑 石川聡

「一生を一日に例えると「午後の死」は老年期直前の黄
昏時だろうか。因みに午後の死は、シヤンパン・ベースの
カクテルの名でヘミングウェイが考案したらしい。(月波与
生)

秋雲の黒き羊は長女らし 木野清瀬

「ただの羊小春日和の空を見る (Nobu Hayashi)

無翼の中島みゆき 西脇祥貴

「翼がないのに翼が見えてきます。かつこいいのですね。
(抹茶金魚)

激しい空手チョップの夜に おかもとかも

「印象ですが、おかもとさんの十四字って、珍しい?よ
うな気がしました。いつも面白い言葉を使われていますが、
「空手チョップ」という語が、おっさん臭いだけに、今回、
余計に意外性を感じました(笑) (まつりぺきん)

扇風機ほぐせば秋の棒となる ぽっぼ

〜役割を終えた扇風機を仕舞うことを「ほぐす」という
労わり方もある。秋の棒となってまた夏を待つ生き方もあ
る。(月波与生)

逢初めや音をたてずに走り蕎麦 小沢史

〜走り蕎麦津手新蕎麦？ですか (long)

風力で三千年を輪廻する さこ

〜壮大な持続と循環 (石川聡)

眠りにつくまでのわたくしの正義 水の眠り

〜眠りについたら わたしは正義の鎧を脱ぎ捨て

わたしの悪を開放するのです

悪を開放してこそ 私を開放できる

だから 眠る間際が一等好き 大好きな句 (鳶きうい)